

2014年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	情報学科						
科目名	データ構造とアルゴリズム I						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年前期		
必修・選択の別	必修科目						
担当者	戒田 高康						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なアルゴリズムや計算量の概念を理解している。</li> <li>・基本的データ構造、抽象データ型を理解している。</li> <li>・構造化プログラミングの意味を理解している。</li> </ul>						
日程と内容	4/11 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法を説明し、その他についての簡単な説明 4/18 プログラミングとアルゴリズム、計算量入門についての説明 4/25 データ構造の基礎、抽象データ型についての説明 5/02 リスト、スタック、キューについての説明 5/09 木構造、クラスについての説明 5/23 フローチャートの基礎（端子と接続）についての説明 5/30 フローチャートの基礎（分岐と反復）についての説明 6/06 前半のまとめ 6/13 再帰的アルゴリズムについての説明 6/14 線形探索についての説明 6/20 二分探索についての説明 6/27 バブルソートについての説明 7/04 クイックソートについての説明 7/11 平衡木とB木についての説明 7/25 期末試験 7/29 期末試験の解答と解説とまとめ						
成績評価基準	定期試験	100%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	合格者の一部(補習による合格者)を除いて <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なアルゴリズムや計算量の概念を理解している。</li> <li>・基本的データ構造、抽象データ型を理解している。</li> <li>・構造化プログラミングの意味を理解している。</li> </ul> の75%以上を理解している。						
反省点	限られた時間で72名の受講生に対しての講義にも拘わらず、基礎的で必修的なアルゴリズムから応用的で発展的なアルゴリズムまで丁寧に説明したことにより、一部の学生が演習や繰り返しの不足により消化不良を起こした可能性がある。						
来年度の計画	講義において、説明するアルゴリズムを厳選して絞り込むことにより、各アルゴリズムの説明時間を増やすことで、多くの学生の理解度が上がるように工夫する。						
授業評価アンケートに対するコメント	必修科目により受講生が72名となり、全体的に評価が低くなっているため、講義の内容：特に講義内容の量や進度(スピード)に対する工夫が必要であると思われる。次のコマの演習科目とセットの科目であるが、アンケートを別にとっている関係上、予習復習に関する要求が無かった点もその設問(設問13)を高くした(全科目の平均と同じ値になった)原因であると思われる。						
履修登録者数	72名	定期試験 受験者数	71名	合格者数	66名	合格率	93%